

令和 4 年度 尚絅大学短期大学部附属こども園 学校評価
(評価対象年度：令和 4 年度)

本園の教育目標

附属こども園の理念・使命・目的に基づき、就学までに次のような子どもを育成することを目標として教育・保育を行う

(1) 恵まれた自然環境の中で、いきいきと遊ぶ子ども

(2) すなおに自分を表現する子ども

(3) 人とのかかわりの中で思いやりや親しみをもつ子ども

(4) 心豊かで、創造性のある子ども

(5) 遊びを工夫し、進んで行動する子ども

令和4年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価

対象：教職員60名、回答数60名、回答率100%

評価はABCの3段階とします。以下の2～6頁のⅠ～Ⅴの「評価」で、A評価が2/3以上ある場合がA評価、2/3以上AまたはB評価がある場合を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとします。

重点目標（事業計画）に対する自己評価の総括			
	評価の観点	評価	成果、及び課題■
1	教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	A (昨年度) (A)	①保育者達は、新型コロナ禍中で様々なことに気を配りながらも、豊かな自然環境を生かして園児達が主体的に遊びながら実感的に学ぶことを重視して環境の構成（教育的な意図）を図り、園児の心身の発達を助長することに努力しています。 ②教育・保育の「全体的な計画（教育課程）」を活用してクリエイティブな実践と改善を行っています。 ③スクールバスの事故防止の対策として、乗車及び降車の際に運転手と保育者が協力し、乗車園児名簿に照らして一人一人をチェックするとともに、必ず車内を確認しています。さらに令和5年度中にスクールバス安全装置を設置する予定です。 ④新型コロナ禍中で、園児が園で食する体験が少なくなりましたが、園児との栽培・収穫活動は行ってきました。さらに、食育推進プロジェクトチームとの実践研究を行い、シンポジウムで発表し健康増進のための啓発を図ったことで、「食育活動の推進」の評価が高まったと考えます。 ■特別な支援を必要とする園児と援助・配慮を必要とする保護者が増えています。今後、園児の安全確保のために保育補助を増員したりして対応したいと考えています。 ■DX化の推進では、ICTシステムを選定し、導入に向けて準備・研修中です。今後、園児の出欠確認、教職員の教育・保育活用等の向上をめざします。
2	園児の確保	A (A)	①共働きの家庭が増え、小規模保育所に預ける保護者が増加し、1号3歳年少児の確保ができませんでした。対応策として、満三歳児募集を12名から18名に増やして確保しました。日頃から、保護者の様々なご要望に応え丁寧な保護者対応、魅力あるHPやポスター配付などに努めてきました。 ■今後、1号の需要が減り2号の需要が増えると考えられるので、1号、2号及び3号の利用定員枠の見直しの取り組みを行ったり、園全体の教育・保育の充実と教職員の確保を基盤に、ポスターの広域配付、2・3号園児を定員の120%まで受け入れたりとすることで、収支均衡を実現するための最善の園児募集を行っていきます。
3	子育て支援の充実	A (A)	①在園児保護者への支援は、「子育て相談会」「お誕生会」「おしゃべり広場」「親と子の集い」などが好評でした。 ②新型コロナ禍中、通常の保育時間はもちろんのこと、3つの学年が交わる放課後の時間の感染防止対策にも努め、学級閉鎖が最小になるように努めてきました。 ③地域保護者への支援は「子育て支援室どんぐりルーム」を中心に、園児学やイベント、短期大学部教員によるイベント、随時子育て相談等が充実し好評でした。 ■次年度から、ICTシステムを導入し、保護者の利便性を更に向上させていきます。 ■特別な支援を要する園児と援助・配慮を必要とする保護者に対して、今後とも療育施設との連携や近隣市町担当課等との連携を推進します。
4	教育・保育の指導力向上	A (A)	①園内研修・授業研究会を行いました。また、菊池・阿蘇地区合同研修会を主査し2回の研修会を行いました。研修会参加が少なくなる中、リモートで処遇改善Ⅱの取得のためのステップアップ研修の受講に努めました。新採の2人は県主催の悉皆研修に参加しました。 ②大学・短大と連携して、食育推進プロジェクトチームでの実践的研究を行い、シンポジウム参加と書面発表を実施しました。 ③教育実習は、新型コロナ禍中で煩雑でしたが、感染防止対策を施して行うことができました。 ■今後とも、教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修の充実を図ります。大学・短期大学部の知見に基づく研修も実施します。 ■令和5年度からの新学部創設に当たり、教育実習の実施期日、方法、内容等の在り方の検討を進めています。 ■教職員が平日の研修に参加する際のフォローの保育者の確保、また振替休日を取りやすくするためのフォローの保育者の確保が課題です。 ■新採の残り3名の悉皆研修は次年度以降に持ち越します。
5	地域連携の拡充	B (B)	①新型コロナ禍中、地域、世代間、小学校との交流や研修等が満足にできませんでした。中学校区での連携事業や地元町教委との連携は行いました。 ②地域の療育施設に通う園児が増えたことに伴い、療育施設や町当局との交流・連携・学び合いを推進しました。 ■新型コロナ禍中、交流や連携には限界がありました。今後、状況の変化に応じて実施していきたいと考えています。

1 学校（自己）評価

令和 4 年度 尚絅大学短期大学部附属こども園 学校評価

令和 4 年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員 6 0 名、回答数 6 0 名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果（％は、評価Aと評価Bを足した割合）及び課題
Ⅰ 教育・保育 内容の改革 と尚絅らし さの追求	1 豊かな自然 環境を生か した特色あ る園づくり	(1)自然環境の整備	①尚絅らしい豊かな自然を生かした環境の整備・充実	A	①全職員で日頃の環境整備・補修に努め、自然豊かな園全体の環境を活用し、園児の発達や興味関心、季節等を配慮し協議して、クリエイティブに構成する教育・保育を実践してきました。 ②保育者達は、自然環境を生かして、園児達が主体的に遊び実感的に学ぶことを重視して環境の構成（教育的な意図）を図り、園児の心身の発達を助長することに努力しており、 A評価(94.8%) でした。
		(2)特別な配慮を必要とする園児への環境の充実	①園全体の環境を活用・創造・構成する教育・保育の実践	A	①特別な配慮を必要とする園児に寄り添い理解し、安全かつ特性に対応した環境を準備するように努め、日常の情報交換、養育施設等と連携した実践を行い、 A評価(86.2%) でした。 ■特別な支援を必要とする園児が増えており、大きな事故には繋がっていないものの、今後は、園庭が広いこともあり、園児の安全確保のために、教職員を増員する必要があります。
	2 教育・保育 内容の充実	(1)教育・保育内容の改善	①「全体的な計画(教育課程)」の改善と作成及び年間行事の改善と実践 ②デジタル教材の活用	A	①日々必要な教育・保育計画を立てて実践し・記録をしています。教育・保育計画の創造と改善のフェーズに入っており、 A評価(87.9%) でした。 ②会議や研修会のリモート開催・出席はもちろん、一時預かり保育のメール受付、保護連絡の「安心メール」配信等のデジタル化・ペーパーレス化を行いました。 ■ICTシステムを選定し、今年度末から、システムの何をどのように使うかの試行をし、次年度中には目的達成に努める予定です。
		(2)大学・短期大学部及び外部専門機関との連携強化	①幼児教育学科及び食物栄養学科との連携	B	①コロナ禍中の影響で、大学・短大との連携・協力が少なく、 B評価(84.5%) でした。 ②尚絅食育推進プロジェクトで、大学・短大と連携して、実践研究をしてきました。 ■コロナ収束後は、大学の知見を保育者や保護者に広める講演会や啓発資料配付等の実践を重ねていきます。
		(3)主体的に自然を体験する学びの推進	①園児の主体性を生む環境の整備と実践	A	①日々、保育者は、園児が季節の草花や野菜・果実、種や実等の植物や虫等に興味関心を示し親しむ体験ができるように関わり、 A評価(98.3%) でした。
	3 生きる力を 育む食育活 動の推進	(1)園児が主体的に関わる栽培と収穫活動	①園児が積極的に栽培、手入れ、収穫に関わる場と時間の確保	A	①園児が、いろいろな野菜の栽培・手入れ・収穫を楽しむ体験ができるように、新型コロナ禍中ながらも計画的に行い、 A評価(93.1%) でした。
		(2)給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成	①尚絅らしい「食育の計画」「給食の計画」の作成	A	①計画作成後、日頃の給食指導の充実と、尚絅らしい「食育」の充実に努め、 A評価(93.1%) でした。 ■今後、バージョンアップしながら実践していく段階に入ります。
		(3)食育活動を中心としたカリキュラムマネジメントの作成	①尚絅らしい「全体的な計画（教育課程）」と「食育の計画」「給食の計画」を関連付けたカリキュラムマネジメント	A	①「全体的な計画(教育課程)」の中に、「食育の計画」と「給食の計画」を位置付け、相互に関連した計画の実践を行い、 A評価(91.4%) でした。 ■新型コロナ禍中は、園児が園で食する体験が少なくなっていたが、今後は増やしていきたい。

1 学校（自己）評価

令和 4 年度 尚絨大学短期大学部附属こども園 学校評価

令和 4 年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員 6 0 名、回答数 6 0 名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅱ 園児の確保	1 園児募集に関する方法と広報活動の改善	(1)園児募集の方法の検討と実施	①抽選制の実施及び入園優先枠（弟妹枠）の検討・実施	A	①園児確保の目的は収支均衡の実現です。抽選制はなくなり、複数の入園優先枠を設けて園児確保に努めましたが、1号3歳年少児は思うように確保できず70人程度にとどまりました。 ②満3歳児枠を12名から18名に増やし確保しました。令和6年度からの3歳児確保につながる計画です。 ③日頃から、保護者の様々なご要望に応え丁寧な保護者対応を行い、魅力あるHPやポスターの地域店頭設置依頼等などに努めており、 A評価(98.3%) でした。 ■今後、1号園児の確保は難しくなると考えられ、園全体の教育・保育の充実と教職員の確保による安全性の向上を基盤に、3号0歳児を増やしたり2・3号園児を定員の120%まで受け入れたり、定員数自体を全体的に見直すなどにも取組み、収支均衡の実現に努めます。
		(2)多様な広報活動の実施	①HPのお知らせ欄、ポスター、パンフレット等の充実	A	①HP「お知らせ欄」を活用し、本園のよさや保護者の喜びにつながる情報の提供を年間に約130件程度行い、 A評価(96.6%) でした。 ■ポスターの広域設置や、スクールバスの運行範囲の拡大などに取り組めます。
		(3)保護者への説明会・見学会の強化	①園の特色をPRするプレゼンと見学会の充実	A	①わかりやすい資料を配付し、プレゼンを工夫した説明会・見学会を行ってきました。コロナ禍の中、規模や時間を縮小するなど工夫して実施しており A評価(96.6%) でした。
		(4)幼児教育無償化への対応	①市町村（菊陽町・合志市・熊本市・西原村）との連携強化	A	①園児の所在地の市町村に対応した幼児教育無償化の事務や、コロナ禍中の分散登園や臨時休園等の返金等にも対応し、 A評価(93.1%) でした。

1 学校（自己）評価

令和4年度 尚絅大学短期大学部附属こども園

学校評価

令和4年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価

対象：教職員60名、回答数60名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅲ子育て支援の充実	1 在園児保護者への子育て支援	(1)講演会・子育て相談・援助の実施	①教育講演会、定期的な子育て相談会、個人面談、保護者交流会の実施	A	①食育に関する3回の講演会、療育や行政と連携した「子育て相談会」を行いました。 ②「誕生会」「おしゃべり広場」「親と子の集い」などが好評で、 A評価(94.8%) でした。 ■尚絅大学・短大の知見を求める保護者の声に応えていく必要があります。
		(2)延長保育・預かり保育の充実	①申込システムの改善（デジタル化）と職員の連携強化	A	①保護者のニーズに応え、人員面・制度面で可能な限りの延長・預り保育を行いました。 ②コロナ禍もあり、昨年度預かり保育の申し込み受付を書面からメールに変更したことが定着し、 A評価(94.8%) でした。 ③コロナ禍中、3つの学年が交わる放課後の時間の感染防止対策に努めています。 ■保護者には預り保育人数の増加を望む声があり、今後注視していかなければなりません。
		(3)特別支援教育の充実	①定期的発達相談会の実施、市町村や療育施設との連携、研修会への参加	A	①日々、教職員が協力して、園児への特別な支援に努め、 A評価(91.4%) でした。 ②特別な配慮を必要とする園児の保護者に対して、市町村や療育施設と連携し、担任等の随時相談や家庭連絡、専門機関の発達相談等を行ってきました。 ■今後は、教職員の研修と、安全性を高めるための保育者の確保が必要です。
		(4)健康管理の実施	①健康診断や衛生検査の実施と園児の健康増進の啓発	A	①環境衛生検査や健康診断等を実施し、保護者との情報の共有と治療や活用を行い、 A評価(98.3%) でした。 ②日常の応急手当とともに、安全性を高めるための安全点検と危険箇所への即時対応・修繕を行いました。 ③保健だより等で必要な情報の啓発・共有も行いました。 ■今年度はわが国で園児らがスクールバス内に閉じ込められる事故が相次ぎました。園児の出欠管理の徹底、教職員の安全研修、スクールバス内の複数点検の励行に努めるとともに、今後国が定める安全装置の設置等を行います。
	2 地域保護者への子育て支援	(1)子育て支援室の利活用	①どんぐりルームの開催	A	①子育て支援室どんぐりルームを中心に、行事や随時子育て相談、情報提供等を行い、 A評価(100%) でした。 ■コロナ禍で開催日が減少していたので、今後は従来の開催日数に戻していきます。
		(2)尚絅子育て研究センター等との連携	①どんぐりルームでの講演会や相談会の実施	A	①コロナ禍中、国や県からの通達を守りながら、子育て支援室どんぐりルームで、保護者に対して、尚絅子育て研究センター教員による「子育て相談会」や子育て相談会を実施し、 A評価(98.3%) でした。 ■大学・短大の教授陣の知見を生かしていきます。
		(3)保育体験の実施	①どんぐりルームで保育体験交流イベントを実施	A	①子育て支援室どんぐりルームで保育体験や交流の場を設け、 A評価(96.6%) でした。 ■次年度からは、保育体験イベントや交流会をさらに実施していきます。
		(4)子育て相談、外部専門機関の紹介	①随時子育て相談と外部諸機関による相談会の実施、相談機関の紹介	A	①コロナ禍中でしたが、開催中は随時子育て相談等を行い、未就園児をもつ保護者の支援に努め保護者の園理解を促進し、 A評価(100%) でした。 ②必要な保護者には外部専門機関を紹介し、課題の解決を行いました。 ■今後、町当局、警察、児童相談所との連携が増えてくる傾向が見られます。

1 学校（自己）評価

令和4年度 尚絅大学短期大学部附属こども園

学校評価

令和4年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員60名、回答数60名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題■
Ⅳ教育・保育の指導力向上	1 園内研修の充実	(1)教育・保育要領に対応した保育研究	①研究保育と保育研究会を通した園内研修の実施	A	①園内研修では、年少組で「研究保育」を実施し、エピソード研修も実施し、 A評価(91.4%) でした。 ■今後とも、教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修の充実を図ります。
		(2)特別支援教育・人権教育に関する研修の強化	①支援に関わる特別支援教育士との連携等、研修の充実	A	①療育施設に通う支援が必要な園児が増えています。園内での研修や、療育施設との交流・連携・学び合いを推進し、 A評価(91.4%) でした。 ■今後とも、特別な支援が必要な園児の増加が見込まれるので、教職員の研修を通して、対応力を高めていきます。
		(3)子どもの主体性を育む環境会議の実施	①教職員が共通のねらい・内容・環境・配慮のもとで行う教育・保育の実践	A	①環境会議において、園全体の豊かな自然環境を、計画的に構成した教育・保育を行い、遊び(学び)と生活が充実する「質の高い教育・保育」を実践し、 A評価(93.1%) でした。 ■今後は、保育者の創造性や学びの成果を生かす取組が望まれます。
	2 研修会・研究会等の積極的参加	(1)学園・大学・短期大学関連の研修会への参加	①尚絅学園、大学・短期大学部が主催する研修会への参加	A	①園内研修や菊鹿・阿蘇地区研修会への講師をお願いしました。 ②食育関連のシンポジウムに多くの教職員が参加・参画し、 A評価(89.7%) でした。 ■新型コロナ禍が収まり、研修会に参加できるようになることを望んでいます。
		(2)特別支援教育・人権教育等の研修会への参加	①県・市・町及び全幼研、全保研等が主催する特別支援教育等への参加	A	①全国私立幼稚園連合会東京大会に2名が参加しました。 ②県主催の「新規採用教員研修」に2名が参加し、 A評価(93.1%) でした。
		(3)実技研修会・その他の研修会等への参加	①自然活用や体験活動を重視した教育・保育研修への参加と報告の実施	A	①処遇改善Ⅱの取得をめざし、土日のステップアップ研修(オンデマンド)受講実績の取得に努め、 A評価(91.4%) でした。 ■今後は、動植物関連、芸術(音楽、造形、絵画)、体育等の研修を計画します。
	3 短期大学部との合同研修及び研究会の開催	(1)短期大学部との定期的、計画的な連携	①園内研修への計画的な講師協力依頼	A	①園児の生涯の健康の基礎を築くことをめざして、「尚絅食育推進プロジェクトチーム」の一員として、「噛む」ことを中心に、実態調査、アンケート、便り、学生の保育参加などを実施してきており、 A評価(93.1%) でした。 ■大学・短期大学部の知見に基づく園内研修の実施と、連携した教育・保育や食育の実践研究を実施します。
		(2)実習生指導計画案の内容検討	①幼児教育学科教員と本園教員との連携協力による指導の充実	A	①教育実習は新型コロナ禍中にも関わらず、感染防止対策を講じて行うことができ、 A評価(96.6%) でした。 ②実習生の教育・保育力の向上に尽力するとともに、実習を通してお互いの学びの充実を図りました。 ■令和5年度の新学部創設に当たり、教育実習の実施期日、方法、内容等の在り方の検討を進めていきます。 ■幼児棟担任には実習生の指導が時間的に負担になっており、改善していく必要があります。

1 学校（自己）評価

令和 4 年度 尚絅大学短期大学部附属こども園 学校評価

令和 4 年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価

対象：教職員 6 0 名、回答数 6 0 名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅴ 地域連携の 拡充	1 地域交流 の充実	(1)地域老人会との連携強化	①行事への参加協力依頼（新春のつどい、美化活動等）	C	①地域のみなさまについては、今年度までは、式や運動会等への参加依頼は見送りました。 ②8月下旬の美化作業は、例年は地域老人会のみなさまのご協力をいただいていたが、今年度は保護者と教職員30名程度で実施しました。 ③新型コロナ禍中でしたので、地域、世代間の交流や研修・連携には限界がありました。満足にできず、 評価不能 でした。 ■新型コロナ禍が収束に向かいつつあるので、次年度からは連携を戻していきます。
		(2)世代間交流の推進	①祖父母との交流依頼（新春のつどい、夏の夜の森の遊び等）	A	①新春のつどいは、祖父母にご案内をし、多くのみなさまにおいでいただき、 A評価（91.4%） でした。 ■新型コロナ禍が収束に向かいつつあるので、次年度からは連携を戻していきたい。
	2 円滑な幼小連携の 推進	(1)職員による学校訪問と小学校教員に向けての公開保育の実施	①小学校と相互訪問・研修、幼保小中連携カリキュラムの検討・作成	A	①「幼・保・小、中連携推進協議会」の事業を協力して行っており、今年度は「菊陽町学びのマップ」づくりに引き続き、アンケートを実施し、 A評価（94.8%） でした。 ②新型コロナ禍中でしたので、小学校との交流や研修・連携には限界がありました。 ③中学校区での連携事業には参加しました。 ■保育者と小学校教諭が相互に授業を参観しあう機会を設けていきます。
		(1)就学に向けた連絡会の実施	①就学先小学校との連絡及び市町教委との連携	A	①コロナ禍の中、可能な限り、就学先小学校と卒園児に関する情報交換等を行っており、 A評価（96.6%） でした。 ②菊陽町教委との連携・協力として、菊陽町特別支援連携協議会には参加しました。

I 乳児期の保育のねらいである「3つの発達」に照らして、わが子はその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和 5 年 2 月
- 2 調査対象 乳児ひよこ組保護者 8 名、回答数4名、回答率50.0%
- 3 評価基準
- (1) 1～3：評価の観点（3つの発達）
- 4.とても育っていると思う 3.だいたい育っていると思う 2.あまり育っていないと思う 1.まったく育っていないと思う
- (2) 4～5：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
- 4 .とても満足している 3.だいたい満足している 2.あまり満足していない 1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（3つの発達）		4	3	2	1
1	身体的発達 (健やかに 伸び伸びと 育つ)	75.0	25.0	0	0
2	社会的発達 (身近な人 と気持ちが 通じ合う)	75.0	25.0	0	0
3	精神的発達 (身近なも のに関わり、 感性が育 つ)	75.0	25.0	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
4	子育て支援事業への満足度	50.0	50.0	0	0
5	経営、教育・保育全般への満足度	75.0	25.0	0	0

Ⅱ 幼児教育のねらいである「5つの領域」に照らして、わが子がその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和 5 年 2 月
- 2 調査対象 1 歳りす組・2 歳うさぎ組保護者28名、回答数21名、回答率75.0%
- 3 評価基準
- (1) 1～5：評価の観点（5つの領域）
- 4.とても育っていると思う 3.だいたい育っていると思う 2.あまり育っていないと思う 1.まったく育っていないと思う
- (2) 6～7：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
- 4.とても満足している 3.だいたい満足している 2.あまり満足していない 1.まったく満足していない

（1）評価の観点（5つの領域）			4	3	2	1
1	健康	□先生や友達との生活リズムに慣れはじめています □体をいっぱい使って遊ぼうとしている □多くの食品に慣れ、食事を楽しもうとしている □手を洗うなど清潔の習慣がしだいに身に付きはじめています □衣類の着脱を自分でしようとしている □自分から便器で排泄しようとしている	56.0	44.0	0	0
2	人間関係	□先生や友達と一緒に心地よく暮らしはじめています □先生や友達と適切な行動や言葉で関わろうとしている □園生活にきまりがあることや、その大切さに気付きはじめています □みなし遊び（真似）やごっこ遊びを楽しもうとしている	68.0	32.0	0	0
3	環境	□いろいろな感覚を働かせて身近な環境に興味や関心、好奇心をもちはじめています □おもちゃ、絵本、園庭の遊具を使った遊びを楽しもうとしている □身の回りにある物の形や色、大きさや量などの性質や仕組みに興味をもちはじめています □自分の物と人の物との区別に、しだいに気付きはじめています □自分が過ごすのにふさわしい場所や居場所を見つけて遊ぼうとしている □身近な生き物に気付き、親しみをもちはじめています □季節の行事などに興味や関心をもちはじめています	68.0	32.0	0	0
4	言葉	□自分の欲求や気持ちを自分なりの言葉で伝えようとしている □生活に必要な言葉を聞き分けはじめています □日常の様々なあいさつをしたり応じたりしはじめています □絵本や物語等に親しみをもち、まねをしたりして遊ぼうとしている □生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	72.0	28.0	0	0
5	表現	□水、砂、土、紙、年度など様々な素材に触れて楽しもうとしている □音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しもうとしている □生活の中で、様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどを感じて楽しもうとしている □歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しもうとしている □生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	84.0	16.0	0	0
（2）本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価			4	3	2	1
6	子育て支援事業への満足度	私は、尚絅こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	60.0	40.0	0	0
7	経営、教育・保育全般への満足度	私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	64.0	32.0	4.0	0

Ⅲ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10 「10の姿」に照らして、わが子（園児）がその方向に育っていると思われるか？

- 1 調査時期 令和 5 年 2 月
- 2 調査対象 満 3 歳以上の園児の保護者249名、回答数223名、回答率89.6%。正規・契約教員 2 3 名、回答数 2 3 名、回答率100%
- 3 評価基準 4. とても育っていると思う 3. だいたい育っていると思う 2. あまり育っていないと思う 1. まったく育っていないと思う

評価の観点（10の姿）			保護者				教職員			
			4	3	2	1	4	3	2	1
1	健康な心と体	健康で安全な生活を意識しはじめ、十分に体を動かして喜んで遊ぶ方向に育っている	78.0	22.0	0.0	0.0	70.8	25.0	4.2	0.0
2	自立心	主体的・積極的に環境と関わり楽しみ、達成感や自信をもつ方向に育っている	51.6	47.1	1.3	0.0	50.0	45.8	4.2	0.0
3	協同性	言葉で友達と関わり、共通の目的に向かう活動を喜び合い成長する方向に育っている	54.7	43.5	1.8	0.0	20.8	70.8	8.3	0.0
4	道徳性・規範意識の芽生え	友達との関わりや生活の中で、善悪を判断し、相手の立場を理解する方向に育っている	42.6	52.5	4.9	0.0	12.5	70.8	16.7	0.0
5	社会生活との関わり	友達や身近な人々へ目を向け、人を大切にしたり人の役に立つことを喜びと感じたりする方向に育っている	51.6	44.8	3.1	0.4	29.2	58.3	12.5	0.0
6	思考力の芽生え	身近な環境に感じ・気づき・考え、予想したり、周りの友達との関わりの中で工夫したり考え直したりする方向に育っている	48.9	45.3	5.8	0.0	45.8	45.8	8.3	0.0
7	自然との関わり・生命尊重	身近な自然物に関心をもち楽しみ、感動したり命をかけがえのないものと感じる方向に育っている	56.5	38.6	4.9	0.0	50.0	41.7	8.3	0.0
8	数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚	遊びや生活の中の数量や図形、絵本等で出会う文字等に興味関心をもつ方向に育っている	51.6	41.3	7.2	0.0	33.3	58.3	8.3	0.0
9	言葉による伝え合い	経験したことを言葉で伝え合うとともに、相手の話をよく聞く方向に育っている	43.5	50.2	5.8	0.4	25.0	66.7	8.3	0.0
10	豊かな感性と表現	身近なことに感動したり、友達の表現に感じたり、自分で表現することを楽しむ方向に育っている	54.7	42.2	3.1	0.0	50.0	41.7	8.3	0.0

学校関係者評価に対する総括

	評価の観点 (文科省が教育・保育 要領で示したねらい)	評価	成果と課題
I	0歳児 「3つの発達」	A	0歳ひよこ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「3つの発達(身体的・社会的・精神的)」が、おおむね順調に発達していると思われる。 - 社会的な発達については、保育者との気持ちがより通じ合うように工夫していることが功を奏していると自己評価しています。 - 精神的発達においては、豊富な遊具や保育者自作遊具等に恵まれて順調な発達をしていると評価しています。
II	1・2歳児 「5つの領域」	A	1歳りす組・2歳うさぎ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「5つの領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)」が、おおむね順調に発達していると思われる。 - 保護者は、広い園庭や恵まれた施設、森や芝生広場等において健やかに伸び伸びと育つ環境を用意できていることを望ましい環境と評価しておられます。 - どの領域においても「あまり育っていない」とお考えの保護者はおられません。保育者達は、愛情をもって応答的・受容的な保育を実践しています。
III	3・4・5歳児 「10の姿」	A	- 満3歳ぱんだ組～年長組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て、認定こども園の教育・保育修了時の具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10」に照らして、全項目とも90%を超えるみなさまが発達の段階に沿った順調な育ちをしていると思われる。 - 内容別にみると、満3歳～年長組まで共通して「健康な心と体」が100%で、自律心や協働性が続いています。 - 教職員は、「健康な心と体」と「自立心」が高くて95%を超えました。昨年度評価が低かった「数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚」は、改善できました。今年度保育者達がずいぶん意識して取り組んだことが要因と考えられます。相対的に低かったのは「道徳心・規範意識の芽生え」が83%程度だったので、今後とも継続して取り組んでいきます。 - 保護者より教職員の方が全体的に低い評価です。これは、保育者の方が集団の中の園児の素の姿を見ていることと、さらに良くなって欲しいという願いや更なる実践をしなくてはという使命感も含まれていると考えています。 - 新型コロナ禍が収束に向かって中、本園の子育て支援事業や経営、教育・保育に対してはおおまかにご満足いただいています。

評価は、保護者が「評価の観点」毎に、4:とても育っている、3:だいたい育っている、2:あまり育っていない、1:まったく育っていないの4段階で評価し、割合(%)を算出した。それを、評価4と評価3を足した割合を算出し、80%以上がA、80%未満70%以上がB、70%未満50%以上がCと評価した。

1	評価委員会開催日時	令和5年3月	書面表決		
2	調査対象	学校評価委員6名（祖父母代表、杉の子会（PTA）会長、学園関係者4名）	回答数100%（※地域代表の方は評価不可能で辞退）		
3	評価基準	評価の観点Ⅰ～Ⅴ： 4達成していると思う 3だいたい達成していると思う 2あまり達成していないと思う 1達成していないと思う 評価の観点1～6： 4充実していると思う 3だいたい充実していると思う 2あまり充実していないと思う 1充実していないと思う			
評価の観点（Ⅰ～Ⅴは事業計画の項目、1～6は経営・管理面）					
Ⅰ	教育・保育内容の改善と尚絅らしさの追求～豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり～	83.3	16.7	0.0	0
Ⅱ	園児の確保～園児募集に関する方法や広報活動等の改善～	50.0	50.0	0.0	0
Ⅲ	子育て支援の充実～在園児保護者・地域保護者～	66.7	33.3	0.0	0
Ⅳ	教育・保育の指導力向上～園内研修の充実、園外研究会等への積極的参加、短期大学部との連携～	50.0	50.0	0.0	0
Ⅴ	地域連携～地域との交流、幼少接続の推進～	33.3	50.0	16.7	0
1	経営・管理面（安全面、園児確保、教員の確保、広報、コンプライアンス等）	16.7	66.7	16.6	0
2	労働面（やりがい、人間関係、広報、コンプライアンス等）	16.7	66.7	16.6	0
3	教員としてのライフステージに応じた指導力の向上	33.3	66.7	0.0	0
4	特別支援教育、人権教育、安全教育、食育等	50.0	50.0	0.0	0
5	大学・短大との連携、教育実習の充実	83.3	16.7	0.0	0
6	保護者(杉の子会)、地域、行政、療育施設、近隣小中学校等との連携	33.3	50.0	16.7	0
評価委員の意見・質問及びこども園からの回答					
新型コロナウイルス感染症拡大に係る諸問題は、特に子供達に大きな影響を及ぼすと考えます。感染しにくい・重症化しにくい子供達には来年度以降は日常の園生活を取り戻してほしいものです。こども園の先生方もとても大変なこととは存じますが、子供達の健全な成長のためにご尽力いただきたく思います。		保護者の就労状況等により入園時期や在園時間の異なる子どもを受け入れる施設として、乳幼児期の子どもに健やかな成長が図られるよう適切な環境を整えながら教育及び保育に当たっておられること、貴園に在籍する園児の家庭のみならず、在宅の子育て家庭を含むす等からもうかがえ、貴園が幼保連携型認定こども園としての役割を十二分に果たしていらっしゃる事がわかりました。五嶋園長先生におかれては、平成31年4月のご就任以来、新型コロナウイルス感染症拡大をはじめとする様々な困難の中で尚絅こども園の教育・保育・子育て支援及び管理・運営にご尽力いただきましたことに改めて心から敬意を表します。		○イベントや行事が先生や保護者への負担増になっているかと思しますので、今後も研究しながら行事等の精選を図っていただければと思います。教育実習を担当される幼児棟の先生方にとっても、子育てしながらもゆとりを持って働くことができる環境を目指して共に考えていきたいと願っております。今後どうぞ、よろしくお願いいたします。	

学校評価の総括

I	保護者も保育者も、わが子・園児は大まかにめざす方向に育っていると評価しています。
II	保護者も第三者評価委員の方々も、園経営はほぼ充実していると評価されています。
III	コロナ禍中ではありましたが、保育者は教師力を高める研修を望んでおり、地域関係諸機関・小学校・団体等との連携や交流が不足していると考えています。今後の充実に努力します。
IV	今後の課題として、以下のことが必要であると考えています。 1 尚絅らしい教育・保育を充実させます。 今後は、「全体的な計画(教育課程)」をもとに、協働してクリエイティブな実践を展開します。 「尚絅らしさ」を「自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児」とし、保育者全員が温かく愛情に満ちた教育・保育を通して健やかな園児の育成に努め、在園児保護者・地域子育て保護者から信頼される園にしていけることが重要だと考えます。 2 園児・保護者・保育者にとって、教員(保育教諭)・パート教員(担任の補助)の確保が安心安全な教育・保育の基盤となります。 保育者の売り手市場の中、教職員の求人は難しい現状です。収支改善が実現しておらず人件費を増額できない状況でもあります。 保護者は、安心できる教育・保育を強く求められており、保育者の常時確保が難しく決して安全な教育・保育が保障されているとは言えない現状も見られるので、国の処遇改善事業を活用して保育者の待遇改善を図って十分な保育者の常時確保に努め、園児の安全性をより高めて保護者に安心していただける環境づくりに努めます。 3 収支均衡を実現させるための園児の確保に努めます。令和5年度より満三歳児を18名に増やしました。今後は、保育者を確保して、3号0歳児を増やしたり2・3号園児を定員の120%まで受け入れたり、定員数自体を全体的に見直すなどにも取り組みます。 4 在園児保護者と地域子育て保護者の支援に努めます。在園児保護者に対しては、DV事案対応などに関係機関とも連携して取り組み、園児の命と成長を守ります。また、特別な支援を必要とする園児の保護者支援としては、療育施設や菊陽町との連携、子育て相談会等に努めます。さらに、教職員の研修を重ねるとともに、「どんぐりルーム」での支援に努めます。 5 教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修(大学・短大と連携した研修、キャリアアップ研修、幼児教育諸団体等の研修)の充実に努めます。 6 本園の使命である教育実習の充実に努めているが、担任保育者の業務負担が大きく担当が難しい保育者もあり、幼児教育科と連携して検討・改善します。 7 園行事の見直しをPTA(杉の子会)と協働で取り組みます。 保護者の相反するニーズ(弁当日、行事の回数、PTA活動の内容・回数等)を調和させ、保護者の無理の少ない活動の実現に努めます。 8 施設設備等の安全性の向上に努めます。 幼児棟は、2005年に建築してから18年目のメンテナンスが必要です。 9 令和5年度よりICTシステムを導入し、園児の安全性向上や、保護者の利便性向上、園業務やサービス管理等の効率化に努めます。